

# 2019年3月期 決算説明会



株式会社 **アルス物流**

(東証二部：9055)

2019年5月8日

代表取締役社長 臼居 賢



# 目 次

第Ⅰ部：2019年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2020年3月期 見通し

第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連

2. 消費物流（「流通サービス」）



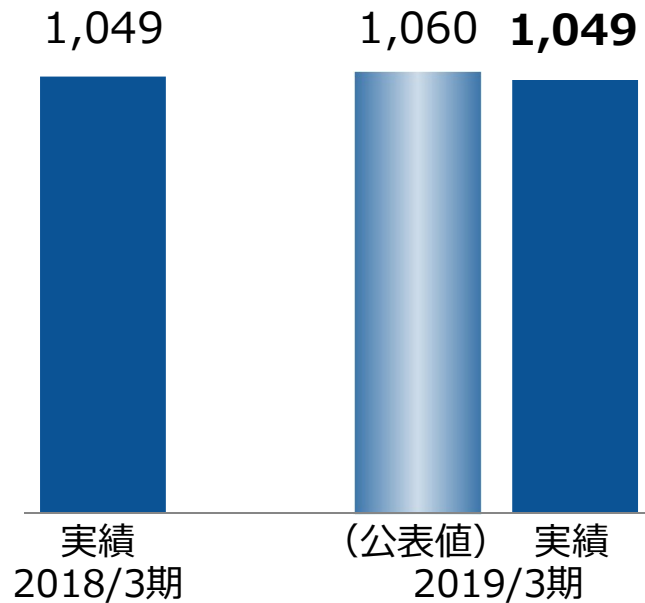
2019年3月期

# 決算概要 (連結)

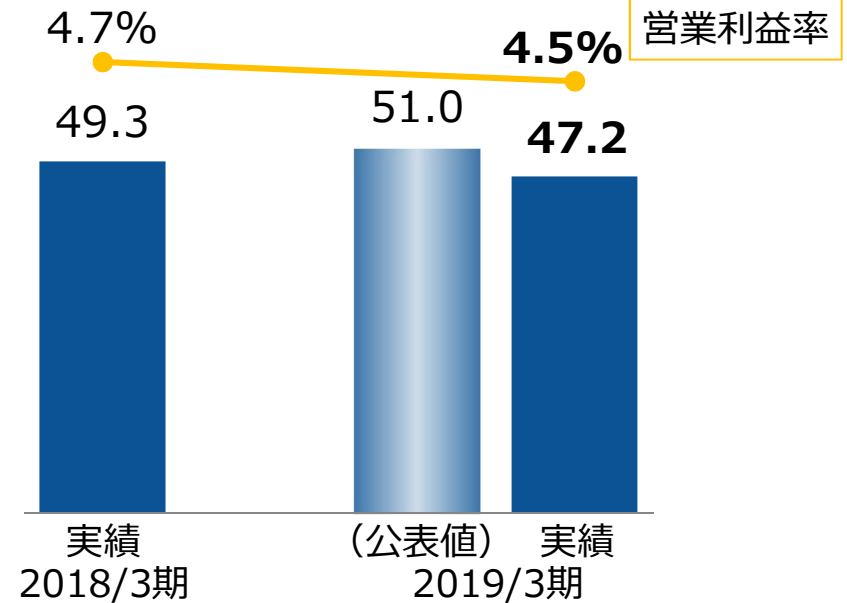
3

| (単位:百万円)            | 2018/3期<br>実績 | 2019/3期 |           |         |
|---------------------|---------------|---------|-----------|---------|
|                     |               | 実績      | 増減率 (対前期) | 期初公表値   |
| 売上高                 | 104,972       | 104,919 | △0.1%     | 106,000 |
| 営業利益                | 4,932         | 4,722   | △4.3%     | 5,100   |
| 経常利益                | 4,702         | 4,830   | 2.7%      | 4,920   |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 2,438         | 2,499   | 2.5%      | 2,700   |

■ 売上高 (単位: 億円)



■ 営業利益 (単位: 億円)





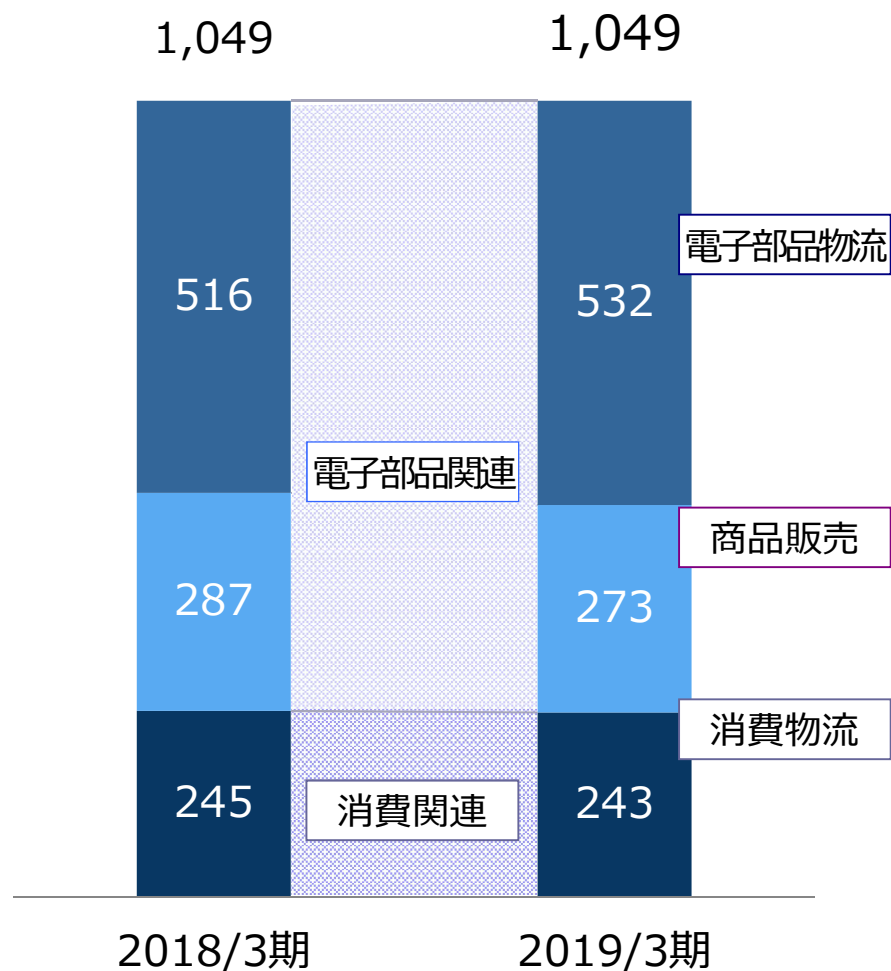
2019年3月期

# 売上高 (連結)

4

## ■ セグメント別売上高

(単位：億円)



※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

前期比  $\triangle 0.5$  億円 ( $\triangle 0.1\%$ )

■ 電子部品物流 + 15 億円

- ・ 外販中心に売上増
- ・ 国内・海外共に増収

■ 商品販売  $\triangle 13$  億円

- ・ 北米で車載関連の生産拡大で需要増
- ・ 欧州・中国では減収

■ 消費物流  $\triangle 2$  億円

- ・ 一部取引の見直しの影響で減収
- ・ EC物流・通販関連など新規受託は確保

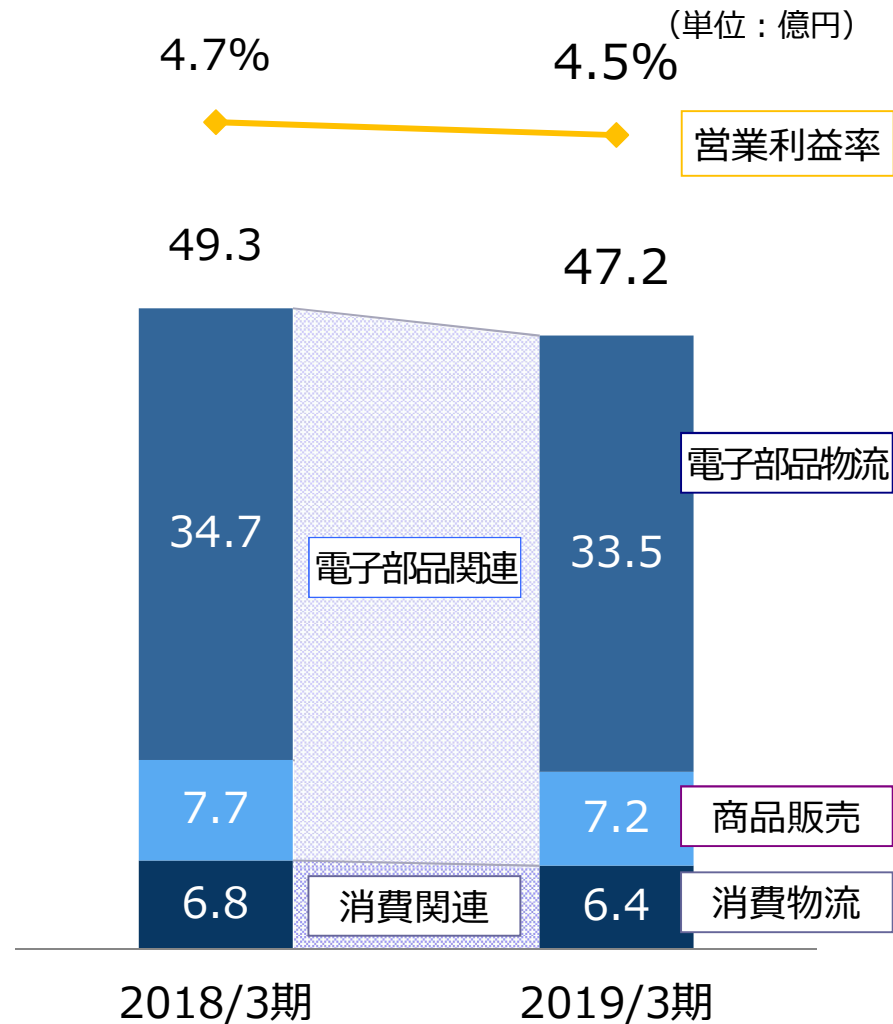


2019年3月期

# 営業利益 (連結)

5

## ■ セグメント別営業利益



前期比  $\triangle 2.1$  億円 ( $\triangle 4.3\%$ )

■ 電子部品物流  $\triangle 1.1$  億円

- ・ 新規拠点の初期立上げ費用が影響
- ・ 航空運賃の高止まりも影響

■ 商品販売  $\triangle 0.4$  億円

- ・ 売上減少による利益減
- ・ 仕入原価率の上昇

■ 消費物流  $\triangle 0.4$  億円

- ・ 人手不足対策に伴う労務関連費用増
- ・ 支払運賃、燃料費等の諸経費増

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

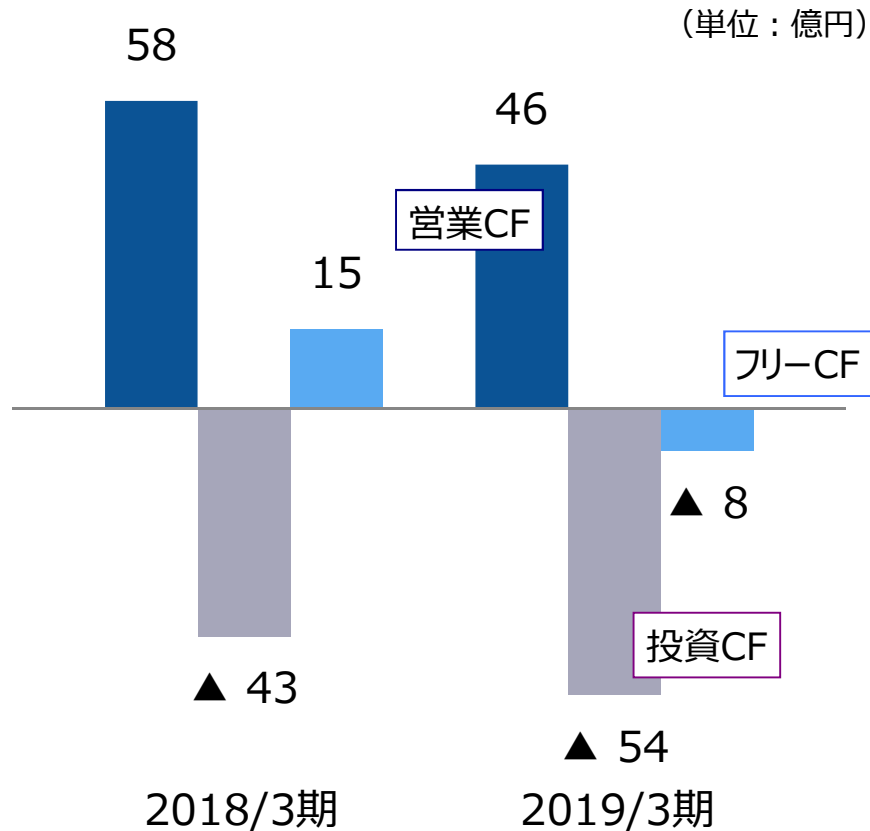


2019年3月期

# 資金状況 (連結)

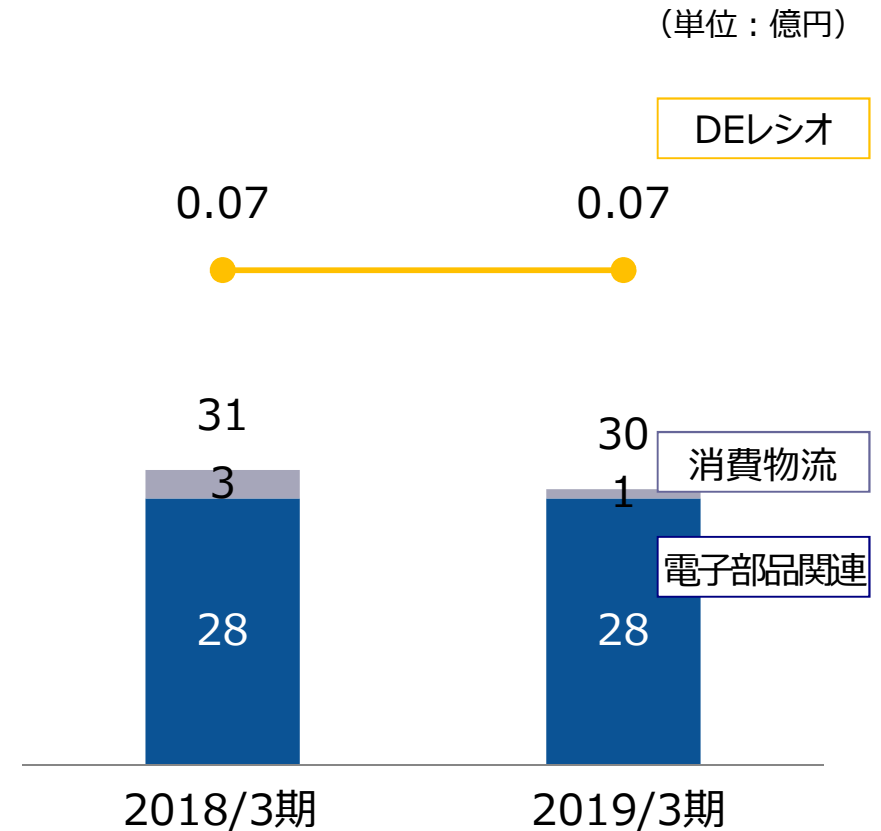
6

## ■ キャッシュフロー



- ・ 営業CF: 仕入支払いの増加により減
- ・ 投資CF: 加須倉庫、タイ倉庫建設費支出

## ■ 有利子負債残高



- ・ 借入金は消費物流で若干減少
- ・ DEレシオは横ばい



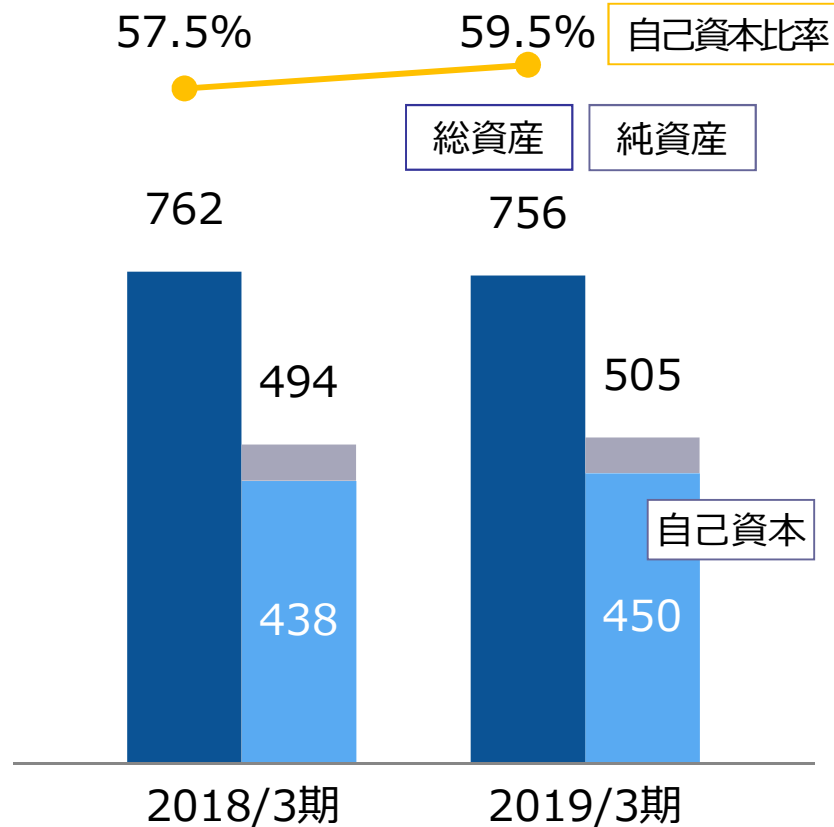
2019年3月期

# 財務指標 (連結)

7

## ■ 資産状況

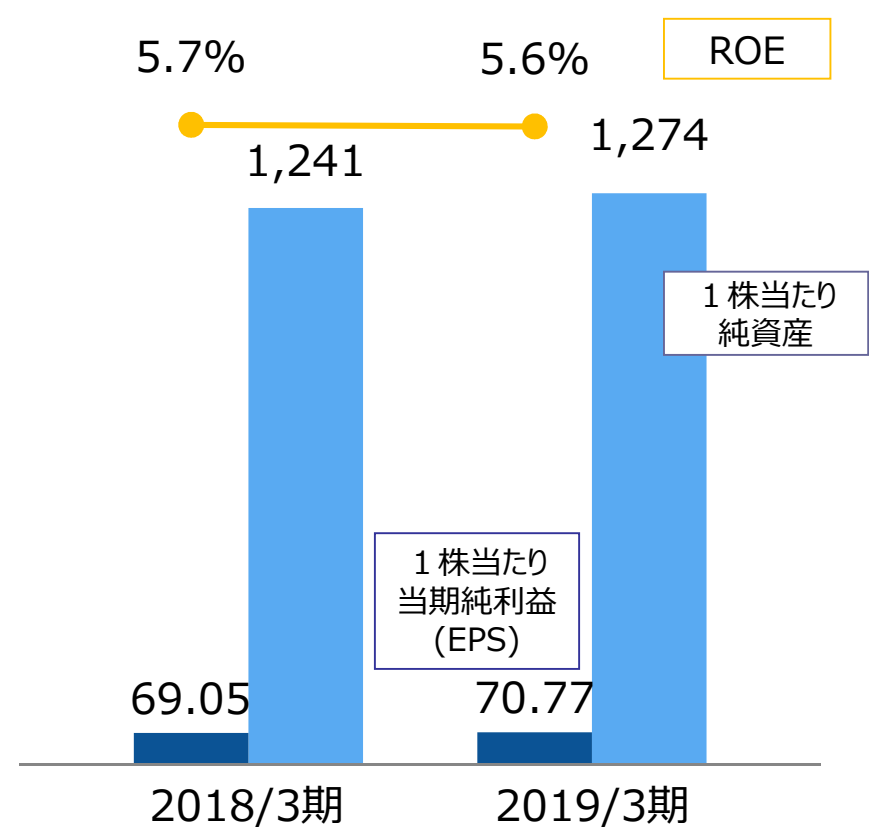
(単位：億円)



- ・ 総資産：投資に伴う現金・預金の減
- ・ 自己資本比率：利益確保に伴い+2.0p

## ■ 1株当たり指標

(単位：円)



- ・ EPS +1.72円：親会社株主に帰属する当期純利益増
- ・ ROE △0.1p：自己資本の増による

第Ⅰ部：2019年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2020年3月期 見通し

第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）





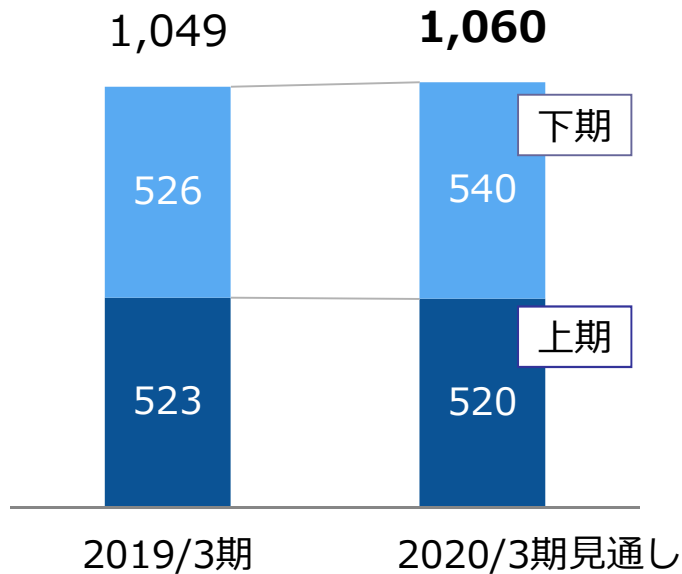
2020年3月期

## 業績見通し (連結)

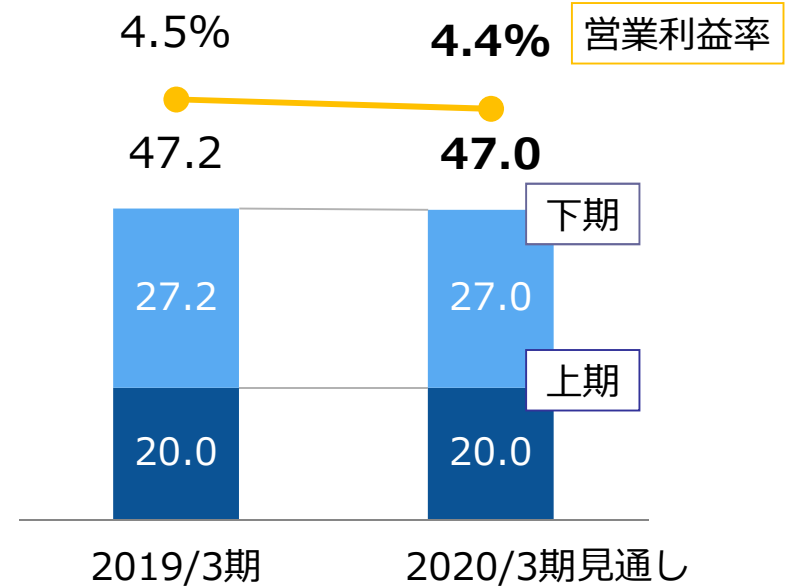
9

| (単位:百万円)            | 2019/3期 |       | 2020/3期 |       |         |
|---------------------|---------|-------|---------|-------|---------|
|                     | 実績      | 利益率   | 見通し     | 利益率   | 増減率     |
| 売上高                 | 104,919 | -     | 106,000 | -     | + 1.0 % |
| 営業利益                | 4,722   | 4.5 % | 4,700   | 4.4 % | △ 0.5 % |
| 経常利益                | 4,830   | 4.6 % | 4,600   | 4.3 % | △ 4.8 % |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 2,499   | 2.4 % | 2,650   | 2.5 % | + 6.0 % |

■ 売上高 (単位: 億円)



■ 営業利益 (単位: 億円)





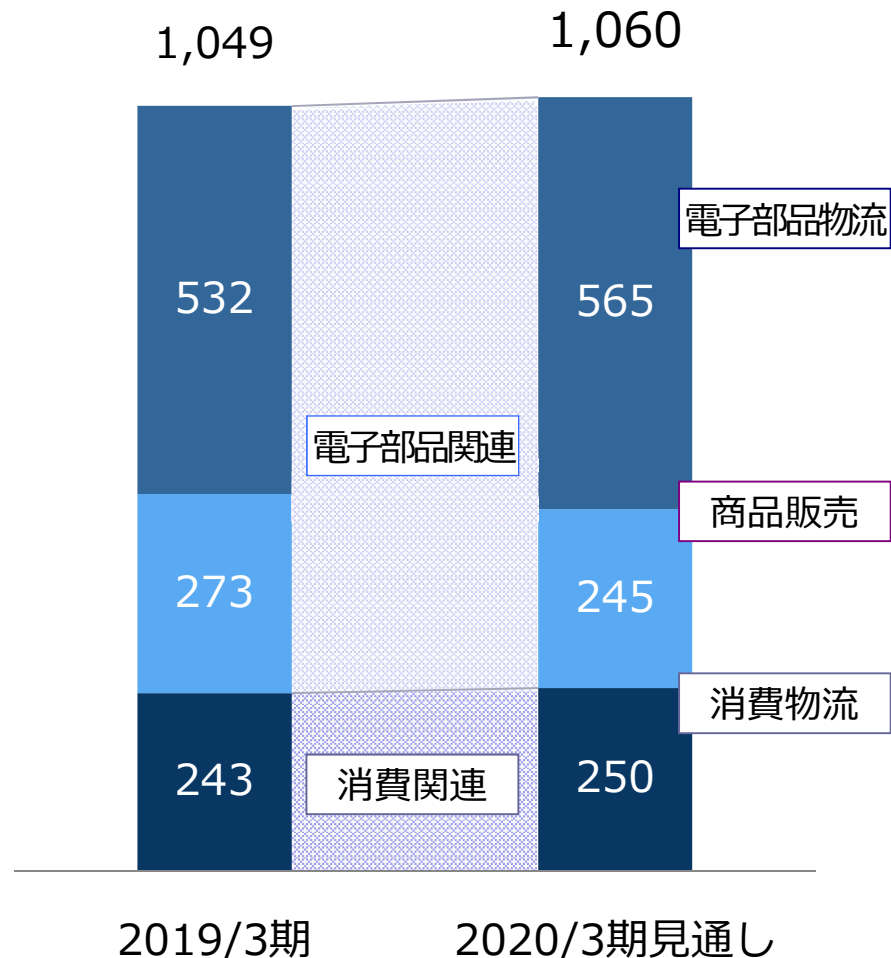
2020年3月期

# 売上高 (連結)

10

## ■ セグメント別売上高

(単位：億円)



前期比 **+10 億円 (+1.0 %)**

■ 電子部品物流 + 32 億円

- ・ 外販を拡大
- ・ 運送・保管・輸出入ともに増収狙う

■ 商品販売 △ 28 億円

- ・ 顧客の現地調達化により需要減
- ・ 包装資材は外販強化に取り組む

■ 消費物流 + 6 億円

- ・ B to B分野への新規拡販を図る
- ・ 生協個配のエリアと事業領域拡大

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です



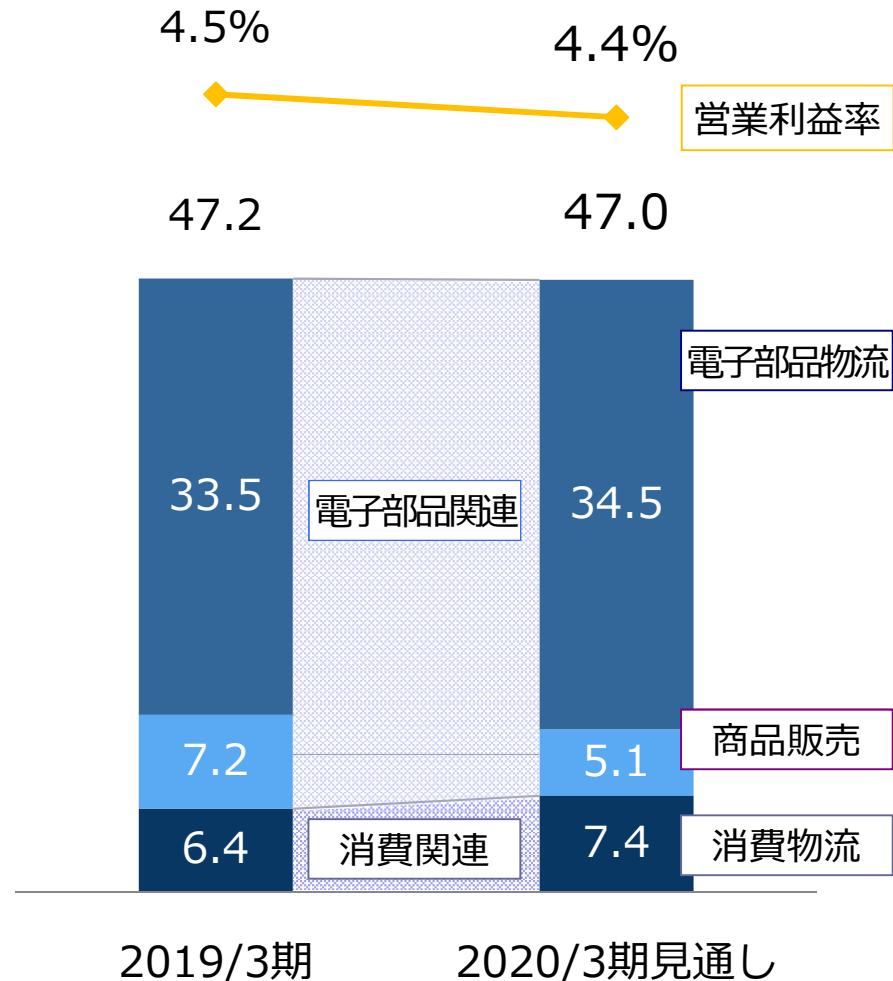
2020年3月期

# 営業利益 (連結)

11

## ■ セグメント別営業利益

(単位：億円)



前期比  $\triangle 0.2$  億円 ( $\triangle 0.5\%$ )

■ 電子部品物流 + 0.9 億円

- ・ 外販推進による増収効果
- ・ 新設拠点の収益性向上に取り組む

■ 商品販売  $\triangle 2.1$  億円

- ・ デバイス、成形材の売上減に伴い減益
- ・ 包装資材は拡販により微増益を目指す

■ 消費物流 + 0.9 億円

- ・ 料金改定による効果
- ・ 人財確保、定着の取り組みを継続

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

第Ⅰ部：2019年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2020年3月期 見通し

第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連

2. 消費物流（「流通サービス」）



# 第4次中期経営計画

13

| (単位:億円) | 2019/3期実績 | 2020/3期見通し | 2022/3期         |
|---------|-----------|------------|-----------------|
| 売上高     | 1,049     | 1,060      | 1,200           |
| 営業利益    | 47.2      | 47.0       | 5%確保<br>(最高益更新) |
| ROE     | 5.6%      | 5.8%       | 6.0%            |

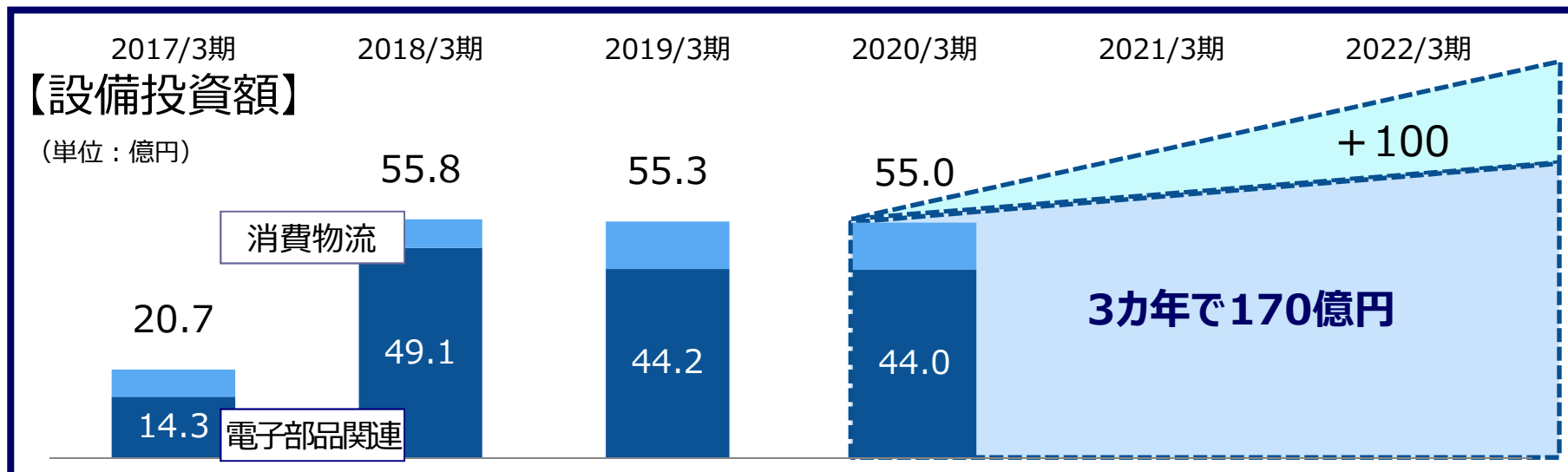
## 【電子部品関連】進化する「最適物流」の領域拡大

- ・ 地域と市場・顧客2つの軸で事業を拡大
- ・ 拠点の整備とネットワーク充実に伴う先行投資の増
- ・ 生産性向上（自動化、TIE）

## 【消費物流】再び成長路線へ復帰

- ・ B to Cビジネスのノウハウを活かし、川上のB to Bビジネスへ拡大
- ・ 個配事業とロジスティクス事業のバランスの取れた成長

## 「戦略投資拡大」 ⇒ 「拠点整備」 + 「生産性向上」



## 【拠点整備】

加須倉庫建設

国内新倉庫検討

香港倉庫再編

タイ倉庫建設

海外拠点の新設・整備など

## 【生産性向上】

新システム（倉庫・輸出入など）

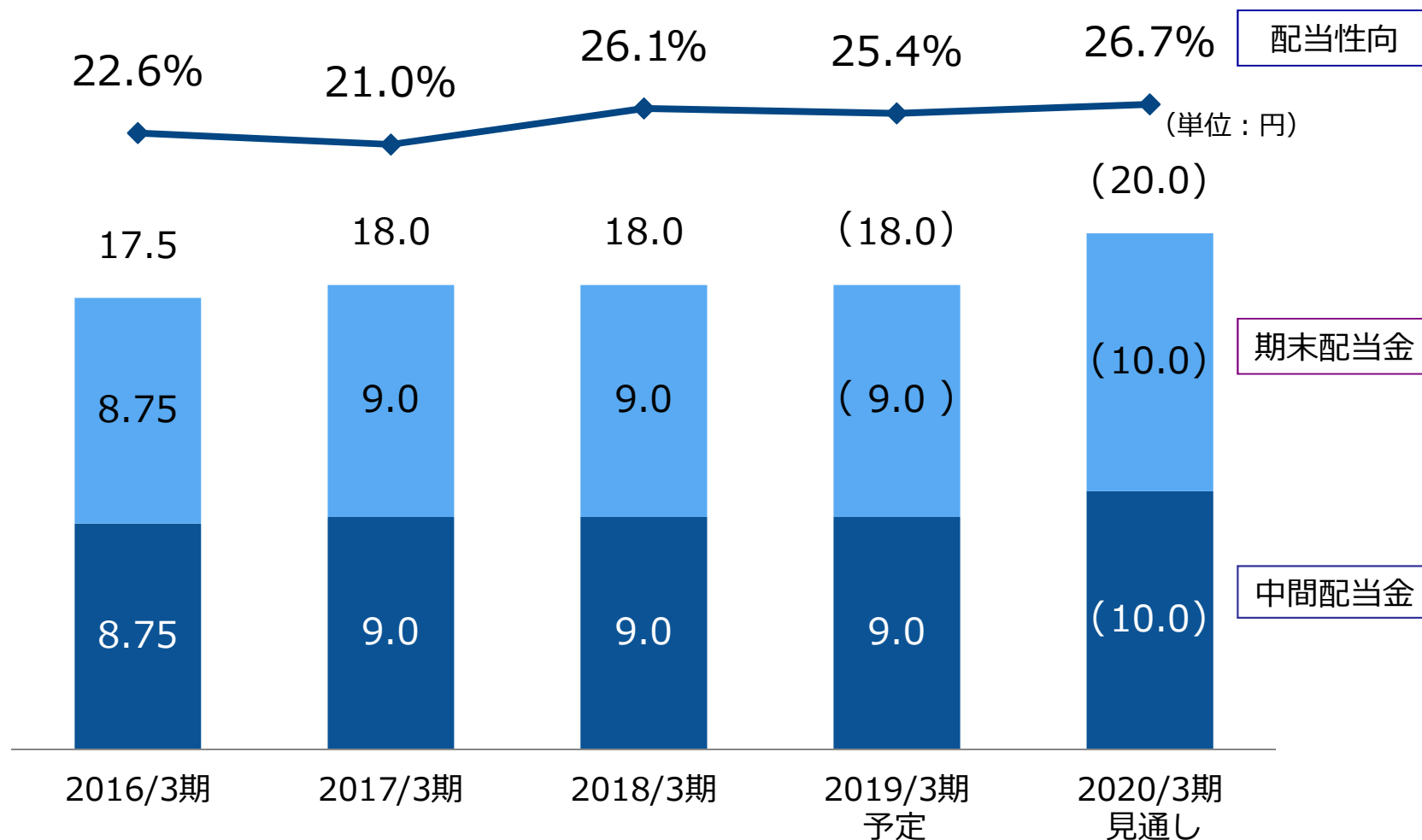
自動化設備



# 配 当 計 画

15

安定的に増配を目指す（配当性向25～30%）  
4次中期では、内部留保は投資へ



※当社は2016年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。  
上記グラフの1株当たり配当金は、分割前の2016/3期につきましても分割後の株数に調整して表示しております。

# 1. 電子部品関連







## 進化する「最適物流」をより多くのお客様に

「連結売上高1200億円達成」「企業クオリティの向上」

### GTB (Business)

#### 市場と商品の拡大

- ① HUB拠点の整備とネットワーク充実
- ② 車載・産機市場向け事業体制確立
- ③ 市場・地域に適合した商品力強化

### GTP (Profit)

#### 間・直の生産性向上

- ① 社内外の技術・ノウハウの融合と深堀
- ② 戦略投資の拡大と確実な刈り取り
- ③ 全社改善マインドと活動のレベルアップ

### GTC (Confidence)

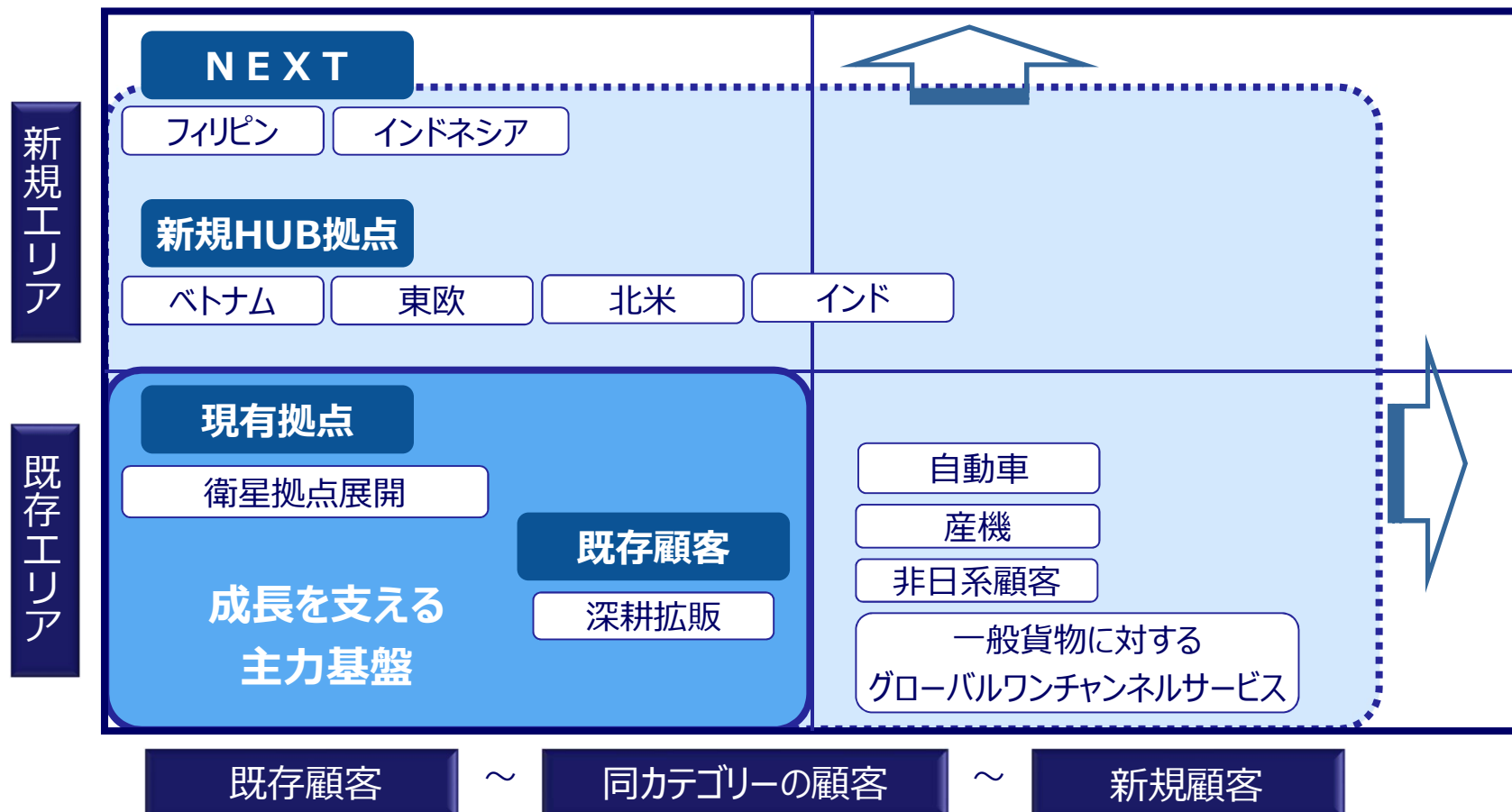
#### 選ばれる会社

- ① 社内外における「感じのいい会社」の追求
- ② 「桁違い品質」の実現
- ③ 「環境・社会との調和」「ガバナンスの強化」



## 地域と市場・顧客の2つ軸でGTB伸長

- HUB拠点の整備と、ネットワークの充実
- 自動車・産機に加え、輸出入中心に一般貨物へチャレンジ





GTB

新規ビジネス比率 10%超へ拡大

GTB

車載関連体制整備 ～ アルプスロジコムの立ち上げ

GTB

海外ネットワークの充実（インド・メキシコ・ベトナム・東欧）

GTP

自動化設備 ユニット → モデルライン導入

GTP

TIE技術者20名 ～ 研究会100名体制へ

GTP

直接・間接部門の生産性向上 10%

GTC

品質不良率 2ppm以下の達成

GTC

人材育成と従業員の満足度向上



## アルプスロジコムの立ち上げ

電子部品物流・グローバル展開



**アルプス物流**

自動車メーカーへ供給実績



60%

40%

自動車部品向けの  
高付加価値な物流サービスを海外へ展開

株式会社**アルプスロジコム**

**中国**

**アジア**

**欧米**



## 「新規HUB拠点の整備」と「ネットワークの継続拡大」

### 欧州（新規HUB）

- 現地パートナーと組み、東欧へ展開
- 調達、販売物流双方の拡大  
（チェコ、ハンガリー、スロバキア）

### 北米（新規HUB + ネットワーク）

- 北米における拠点展開
- 米国中西部とメキシコをつなぐ広域ネットワーク充実

### アジア（新規HUB）

- 自動車メーカーに対するロジスティクス体制整備
- ベトナム倉庫拠点の充実と運送事業の自営化取り組み（ハノイ、ホーチミン）

### 中国（ネットワーク）

- HUB拠点周辺地域への拡大
  - ・ 渤海湾周辺・北部へのネットワーク拡大
  - ・ 上海近郊都市への倉庫拠点展開
  - ・ 珠江デルタ西部への倉庫拠点展開





## 電子部品保管事業の拡大 GTB順調に推移

- 2019年5月末竣工予定
- 土地面積：32,000㎡、倉庫面積：20,000㎡(地上3階建て)
- タイ・バンコク近郊
- 温度・湿度管理、帯電防止、防塵対策など  
電子部品及び半導体に最適な環境を整備
- ドックシェルター15台を設置







## ■ 外部導入

パレット・カートン  
単位

イージーリフト



ストレッチ包装機



バンド掛け装置



AGV自動運搬機 \*1



カートン自動倉庫 \*2



ソーター（自動仕分け）



オースキャナー



オートラベラー \*3



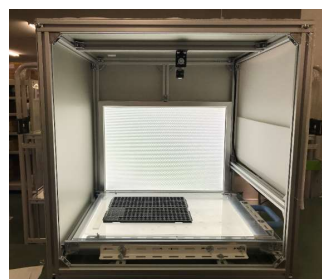
## ■ 自社開発

ピース単位

半導体の小分け装置



数量確認装置



ラベル貼付装置

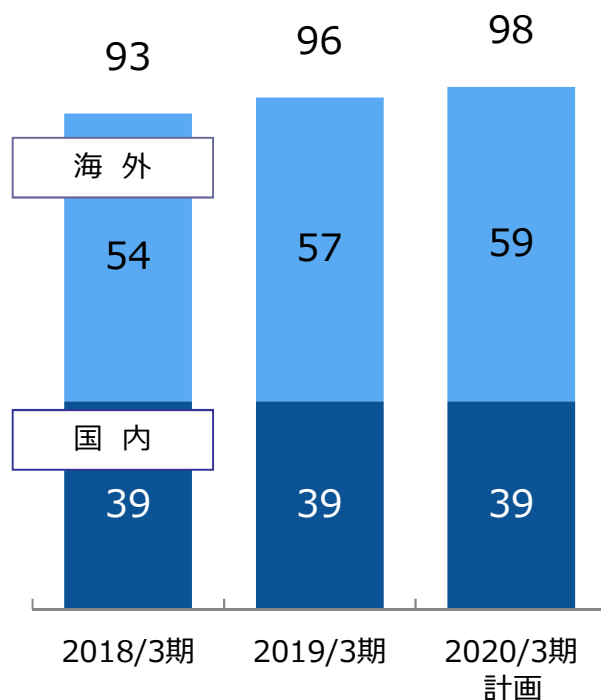




# 物流インフラ拡充の状況

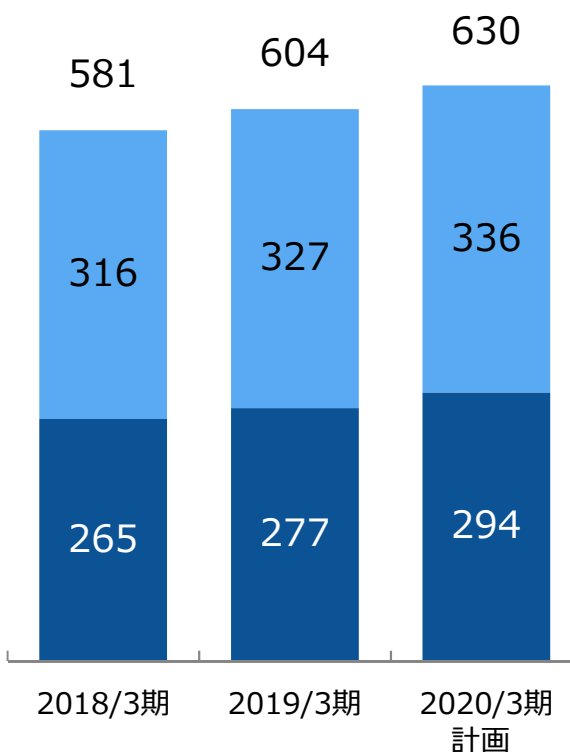
## ■ 拠点数

(単位：箇所)



## ■ 倉庫面積

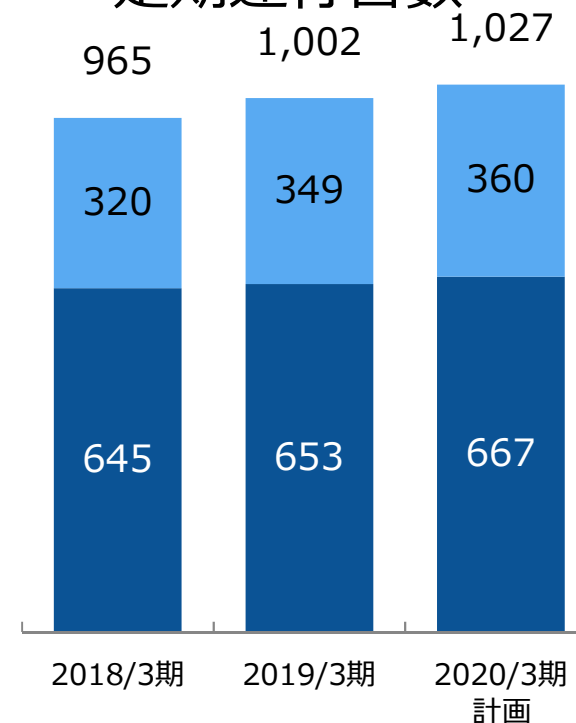
(単位：千㎡)



## ■ トラック

(単位：台)

### 定期運行台数

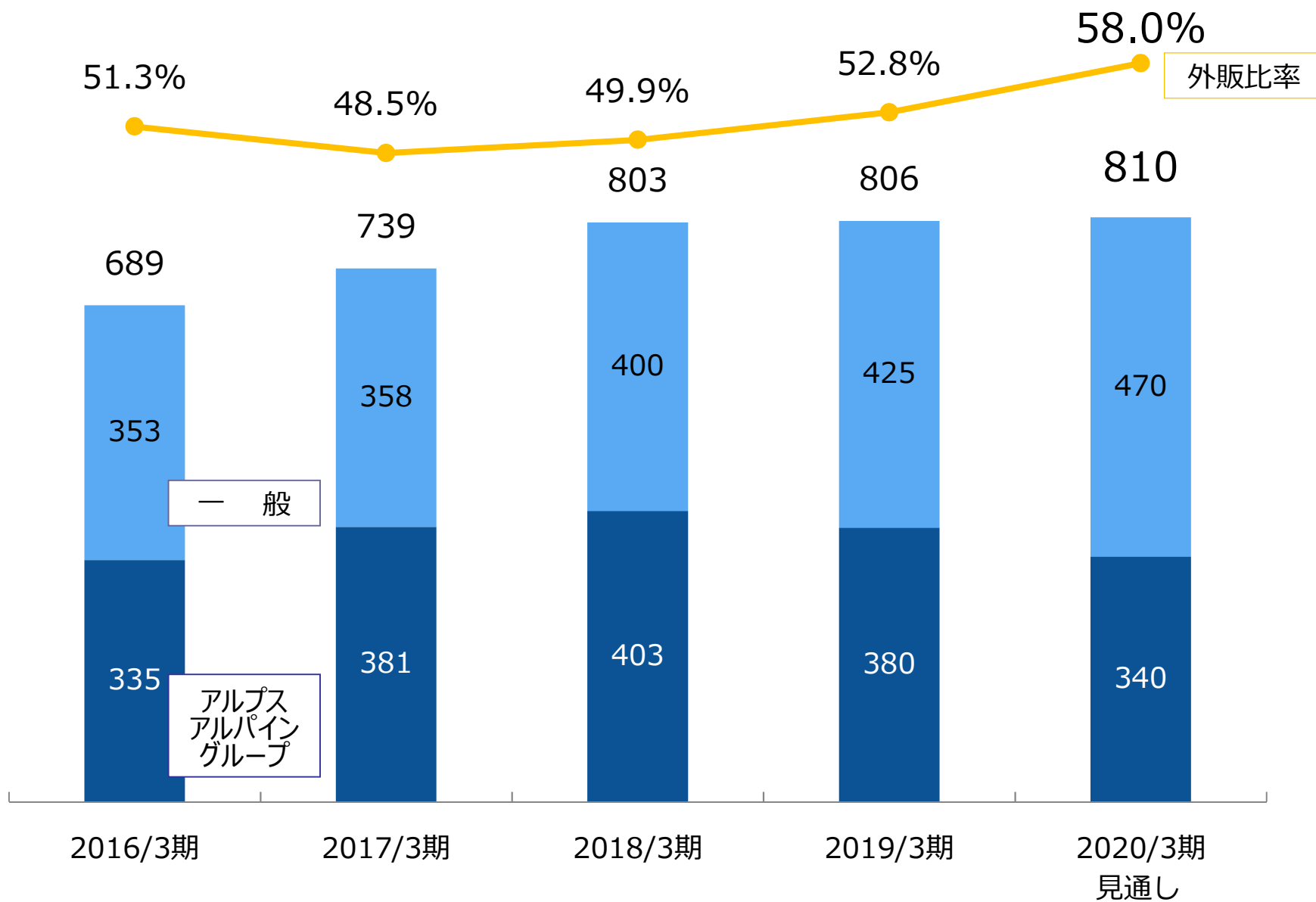






# 外 販 比 率

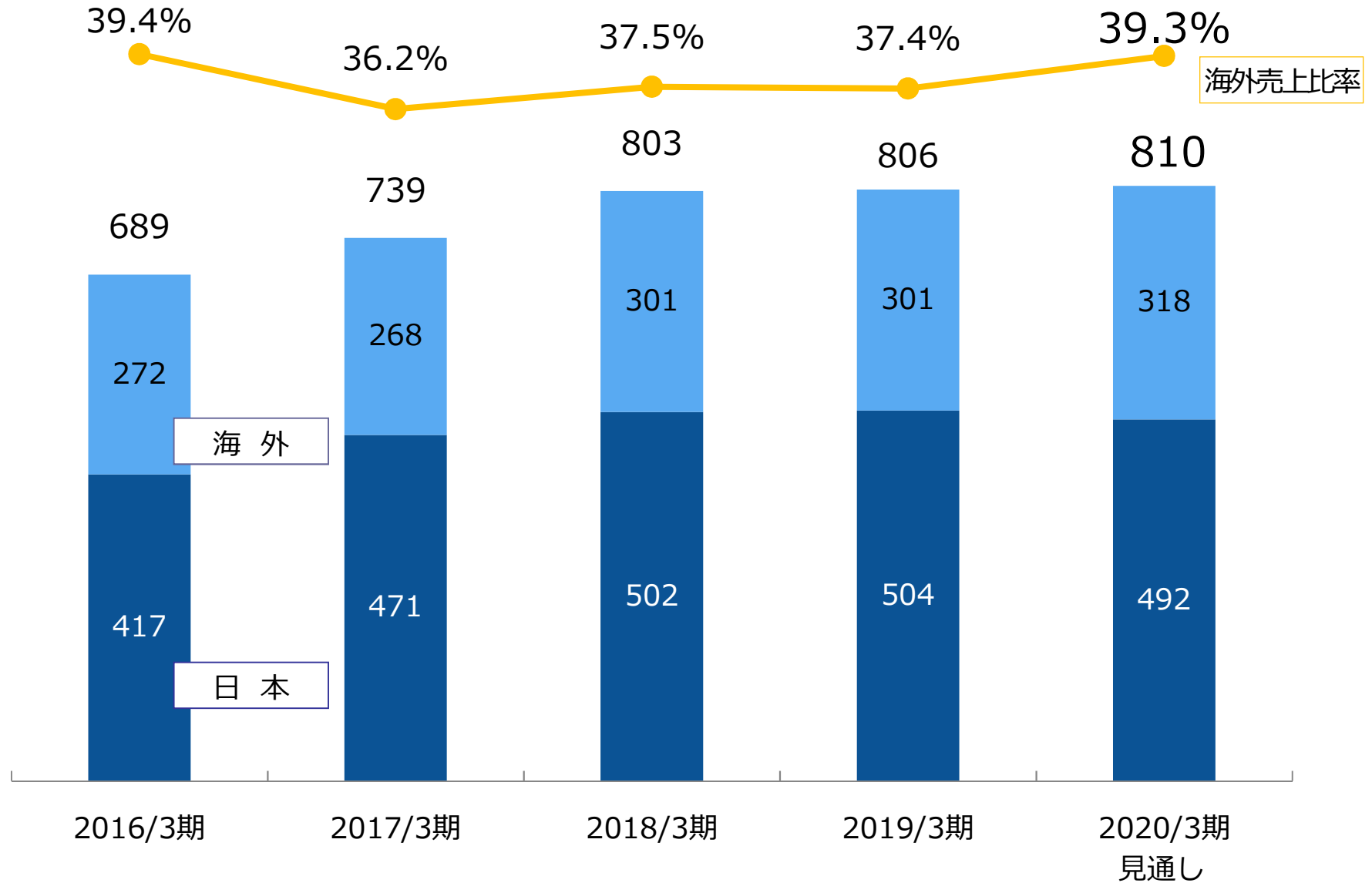
(単位：億円)





# 海外売上比率

(単位：億円)



## 2. 消費物流

(流通サービス)





## GTB (Business) 持続的成長

- ① サプライチェーンの川上物流へ領域を拡大
- ② 物流体制の整備による新市場への拡販
- ③ 顧客との関係強化による拡販ポテンシャル増大

## GTP (Profit) 収益性改善

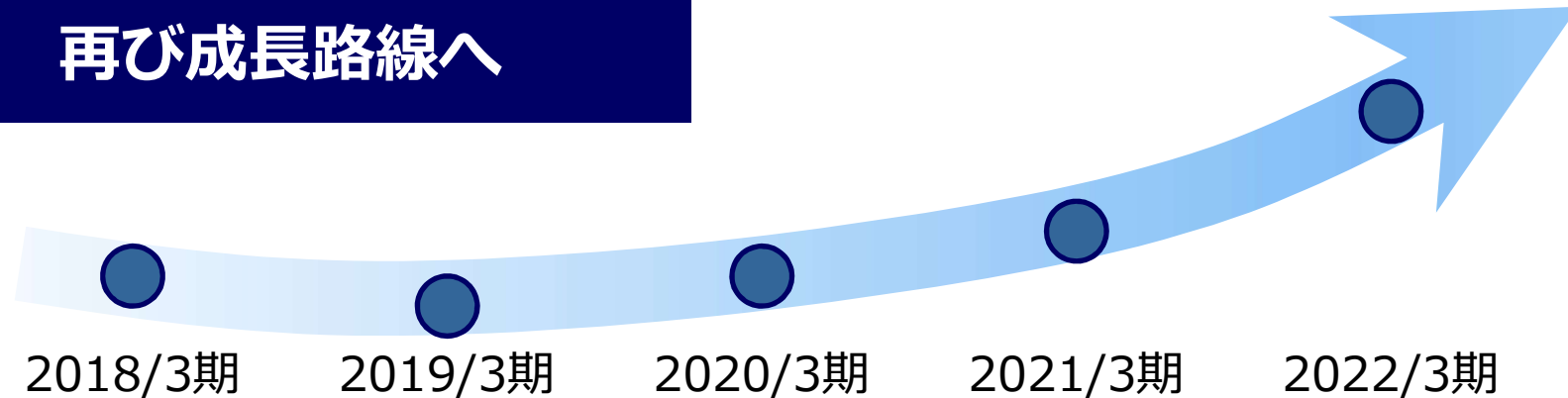
- ① 採算性を優先、収益性の高い事業モデルへ転換
- ② 生産性向上の意識強化
- ③ 倉庫・車両・システムへの戦略的投資

## GTC (Confidence) 現場力強化

- ① 「さすが流通サービス」の実現
- ② 現場モチベーションアップ
- ③ 5SプラスONE（質へのこだわり）

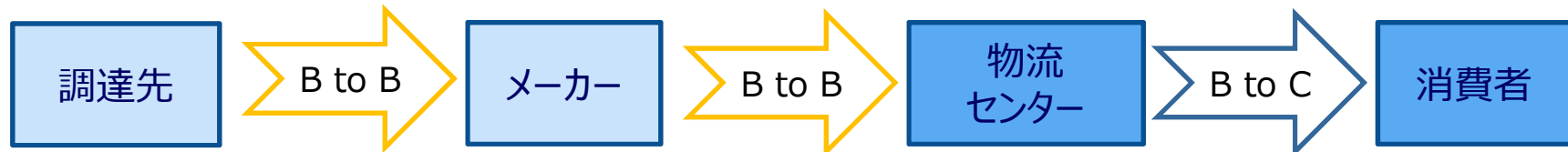


## 再び成長路線へ



### ■サプライチェーンの川上物流へ領域を拡大

物流センターと幹線ネットワークを活かしてB to B新規獲得



### ■メディカル（医薬品、化粧品含む）物流への領域拡大

高品質な物流サービス提供による高単価・高付加価値分野への拡大

### ■生協宅配ビジネスの地方エリアへの拡大

基盤のある東北、西日本エリアへ重点的に拡大



## 拠点整備を加速

首都圏だけでなく、東北、  
西日本を重点的に拡大



|          | 2019/3期 | 2020/3期計画 |
|----------|---------|-----------|
| ■ 拠点数    | 111 →   | 112 ケ所    |
| ■ 倉庫面積   | 221 →   | 222 千㎡    |
| ■ トラック台数 | 2,419 → | 2,470 台   |

## 働き方改革と生産性向上

### 人財の確保、定着、育成の取組み

- ① 職場環境の改善
- ② 総労働時間の短縮
- ③ 有給休暇取得の推進
- ④ 新人教育の充実

### 現場力強化

- 定着率向上
- モチベーションアップ
- 品質向上



**ご清聴ありがとうございました**  
**今後ともご支援を賜りますよう**  
**宜しくお願い申し上げます**



**注意：**

**本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。**

**実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。**

**また、本資料は会計監査対象外となっています。**